

推 奨 映 画 に つ い て

推奨番号 147号

題 名	夕風の街 桜の国
製 作	「夕風の街 桜の国」製作委員会 アートポート, セガ, 住友商事, 双葉社, 広島テレビ他
配 給	(株)アートポート
内 容	<p>原爆投下から13年。昭和33年広島市街。復興の進んだ街は活気を取り戻していた。平野皆実(みなみ)は父・妹を亡くし、母・フジミと二人暮らしをしている。弟・旭(あす)はあの日の前に疎開した水戸の親戚の養子になっている。淡々とした日常の中、原爆の記憶が“生き残ってしまった”皆実を苦しめる。新しい一步を踏み出そうとした矢先、原爆の後遺症が皆実を襲う。</p> <p>原爆投下から60年後。平成19年夏。疎開で被爆を免れた皆実の弟・旭は、姉・皆実の50回忌を期に姉の思い出を尋ね広島を訪れる。東京で暮らす皆実の姪・石川七波(ななみ)は父・旭の最近の不可解な態度を突き止めようと、尾行することに。七波は駅で偶然出会った同級生東子(あづま)と共に父を追い、広島に向かうことになる。父は広島に着くと思いの場所を回る。それは旭の母・フジミと姉・皆実と過ごした場所や二人が眠る墓地であり、旭は二人を知る人々を訪ねて歩く。七波は父の背中を追いかけながら、自分自身のルーツを見直していく。</p>
推 奨 理 由	<p>映画は、広島で被爆した家族の13年目を描く「夕風の街」と、その子どもとして原爆とは無関係と思って生きてきたヒロインが、原爆の悲劇が自分の人生に大きく関係していたことを知ることにより、自分のルーツを見つめ直す「桜の国」で構成されている。広島に在住する青少年が、現代に生きる七波を通じて、原爆の悲惨さを伝えることの必要性、生きることの喜びや平和の尊さを感じられるものであり、青少年の情操を豊かに育み、また青少年の健全育成に役立つものと認められる。</p>
上映期間・場所	<p>期間：平成19年7月21日～</p> <p>場所：広島シネツイン, 広島宝塚会館, TOHOシネマズ緑井, ワーナーマイカルシネマズ広島, Tジョイ東広島, 広島バルト11, エーガル8シネマズ</p>